

2008年度活動報告会

## 【調査研究部会】セキュリティ被害調査WG

# 2008年 個人情報漏えいインシデント分析結果報告 ～個人情報漏えいの 現状から見える対策の弱点～

大谷 尚通  
(株)NTTデータ

2009年6月3日

## 目的

- 情報セキュリティインシデントにおける被害の定量化
- 適切な情報セキュリティに対する投資判断、投資対効果の提示

**情報セキュリティ分野において  
被害の定量化や投資対効果の  
考え方をもっと普及・発展させたい**

# 本日の報告内容

## 2008年 個人情報漏えいインシデントの分析結果の報告

- 2008年 個人情報漏えいインシデント
- 2008年 インシデント・トップ10
- 業種別、原因別、媒体別
- 漏えい件数と漏えい人数
- 想定損害賠償総額と漏えい件数
- 一件あたりの想定損害賠償額
- 現状から見える対策の弱点
- 2007年情報漏えいインシデントの総括

## 2009年 活動計画

『2008年 情報セキュリティインシデントに関する調査報告書』は、近日公開予定です。

# 2008年 個人情報漏えいインシデント **JNSA**

漏えい人数	723万2,763人
漏えい件数	<b>過去最高</b> 1,373件
想定損害賠償総額	2,367億2,529万円
一件当たりの漏えい人数	5,668人
一件当たり平均想定損害賠償額	1億8,552万円
一人当たり平均想定損害賠償額	4万3,632円

723万2,763人

1億2,769万2,000人

= 約18人に1人の割合  
一日平均3.8件

2007年  
4人に1人  
2.4件/日

# 2008年 インシデント・トップ10



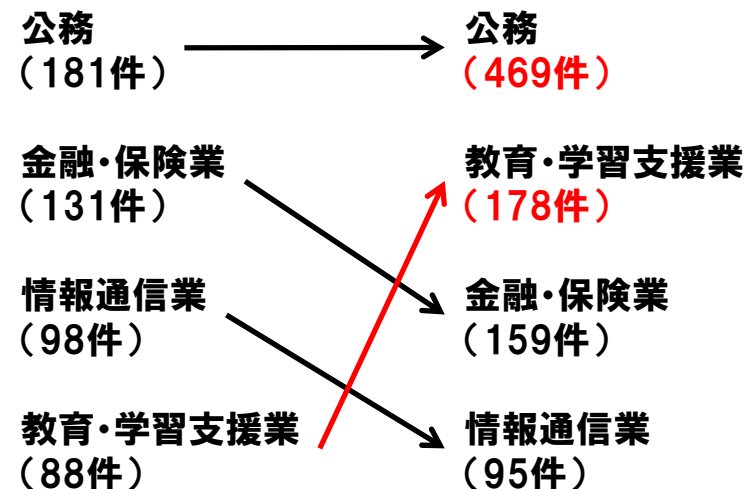
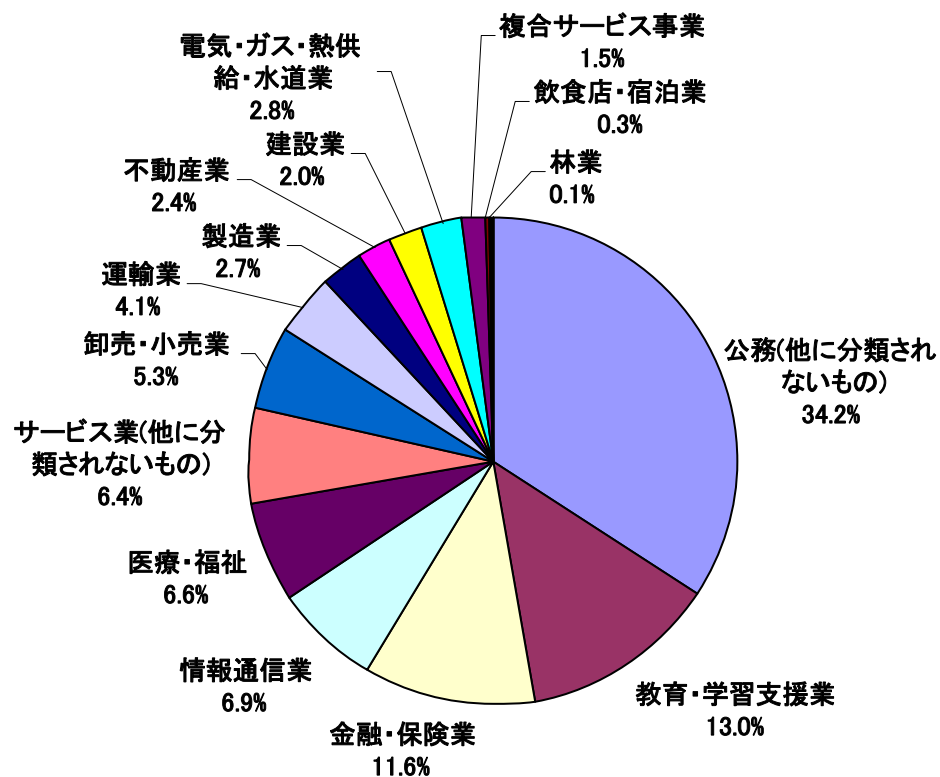
No.	漏えい人数	業種	原因
1	99万5,023人	公務(他に分類されないもの)	管理ミス
2	76万6,356人	公務(他に分類されないもの)	管理ミス
3	65万3,424人	卸売・小売業	不正アクセス
4	34万9,827人	金融・保険業	管理ミス
5	29万1,338人	公務(他に分類されないもの)	管理ミス
6	26万9,350人	金融・保険業	管理ミス
7	26万2,781人	公務(他に分類されないもの)	管理ミス
8	25万4,677人	金融・保険業	管理ミス
9	23万2,970人	情報通信業	内部犯罪・内部不正行為
10	21万3,443人	公務(他に分類されないもの)	管理ミス

2007年以降、  
管理ミスが多い

組織内の情報管理の強化  
(内部統制対応)  
↓  
大量の誤廃棄

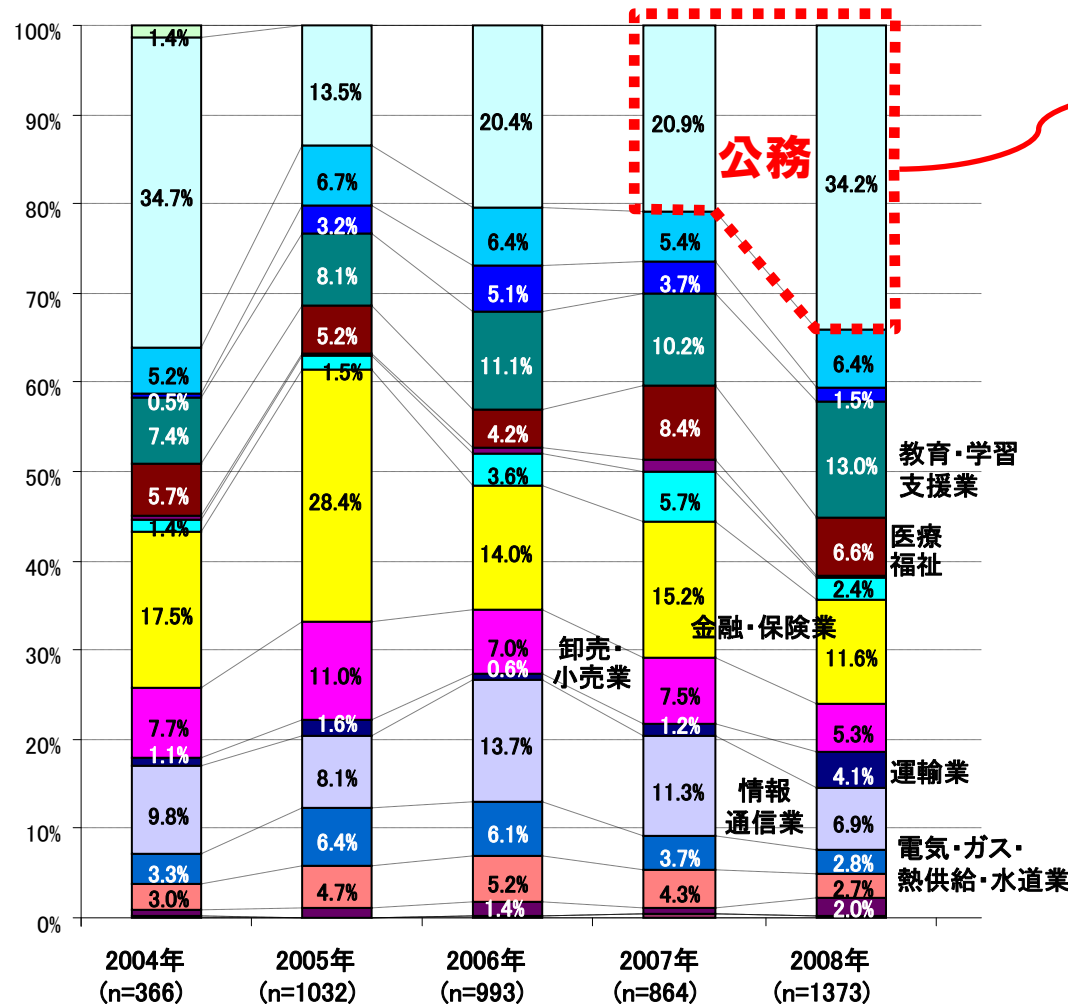
◎100万人を超える大規模なインシデントが発生していない。

## ① 業種別の漏えい件数



**漏えい件数が多い  
上位4業種は同じ**

## ① 業種別の漏えい件数(経年)



**公務の漏えい件数が大幅に増加**

公務(181件→469件)

他の業種の比率が減少傾向に見えるが、件数が増えている業種もあるので注意

- 教育・学習支援業 (88件→178件)
- 金融・保険業 (131件→159件)
- サービス業 (47件→88件)
- 運輸業 (10件→56件)

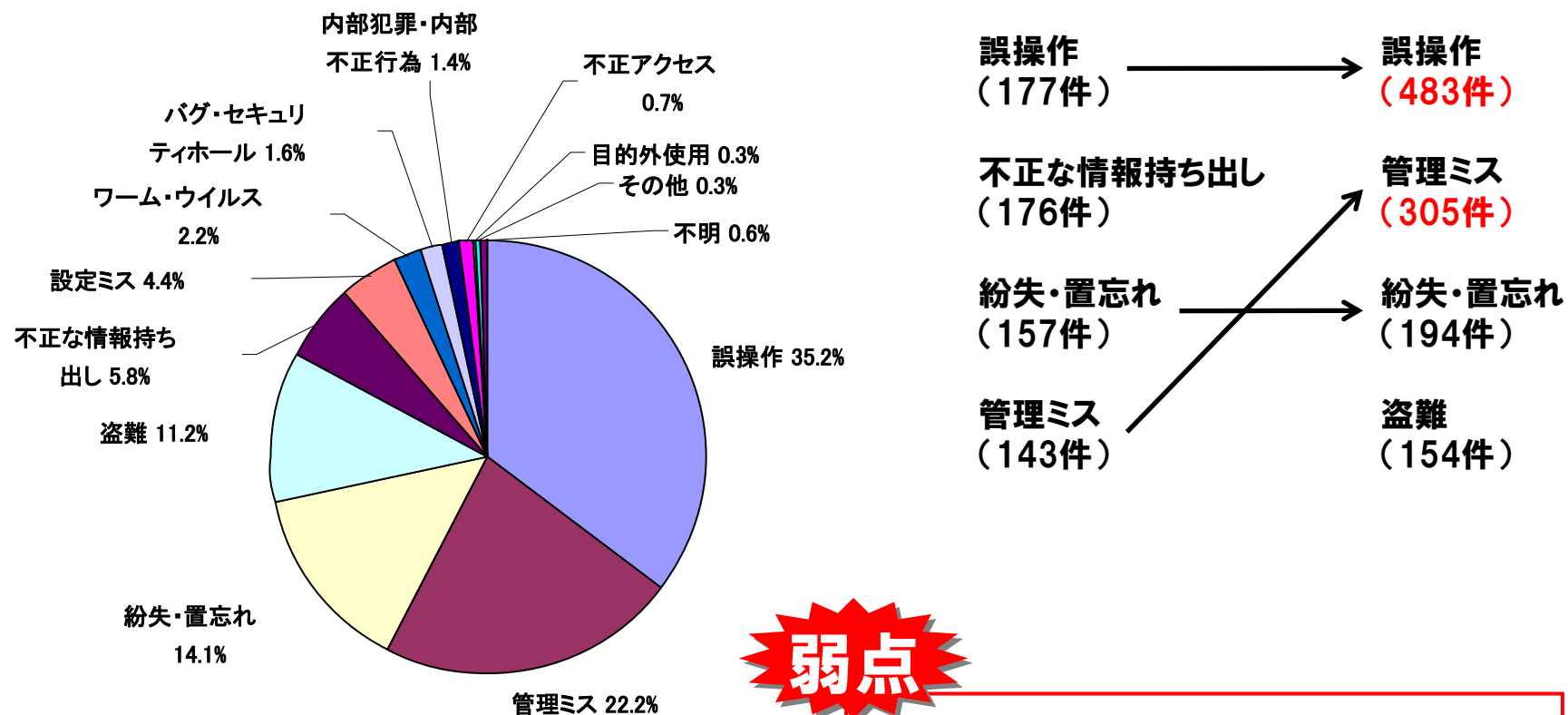
**漏えい件数が全体的に増加**

2007年=864件 2008年=1373件

◎把握できていなかった個人情報漏えいが明らかになるなど、良い傾向の場合もある

※2002年、2003年のデータは、母数が少なく、統計データとしての偏りが大きいため、グラフから除く

## ② 原因別の漏えい件数

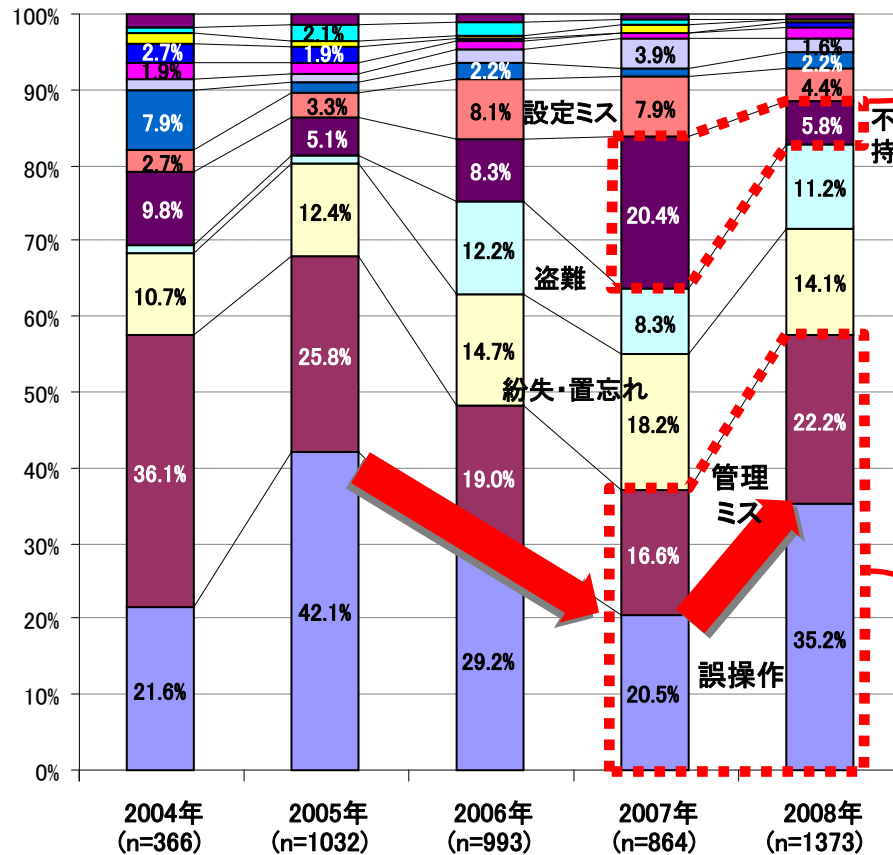


**弱点**

**誤操作 = ケアレスミスによる漏えいが増加**



## ② 原因別の漏えい件数(経年)



◎不正な情報持ち出しの比率が減少

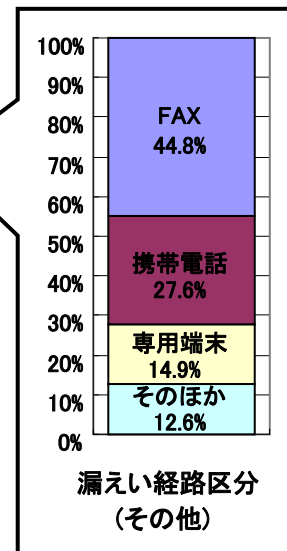
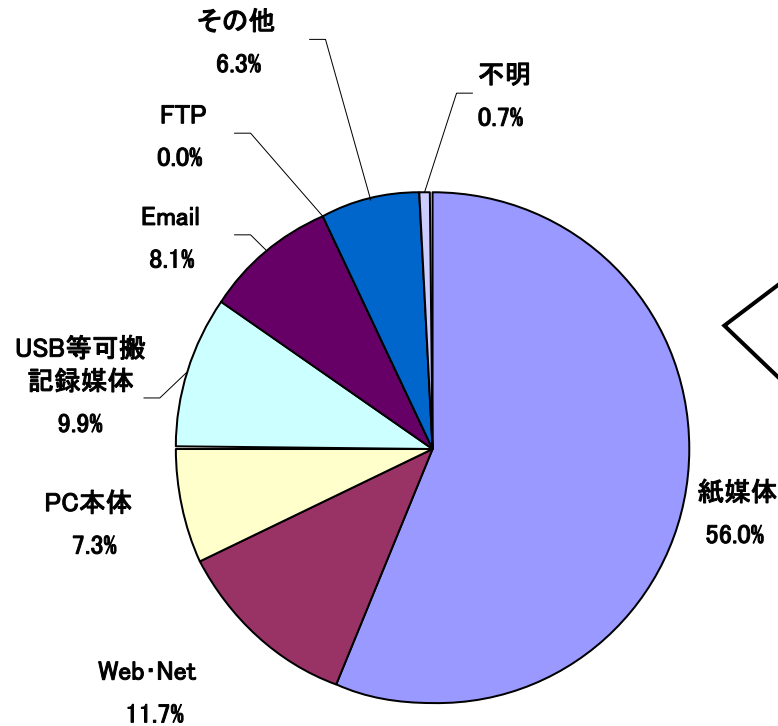
◎ファイル交換ソフトによる漏えいに対して管理策による対応が進んだと推測。

ファイル交換ソフトの漏えい  
 2007年 142件(16.1%)  
 2008年 67件( 4.9%)

誤操作、管理ミス  
 減少傾向から増加に転じた

紙媒体による小規模なインシデントの増加と関係している。(後述)

# ③ 媒体別の漏えい件数



紙媒体 (349件) → **紙媒体 (769件)**

Web・Net (133件) → Web・Net (160件)

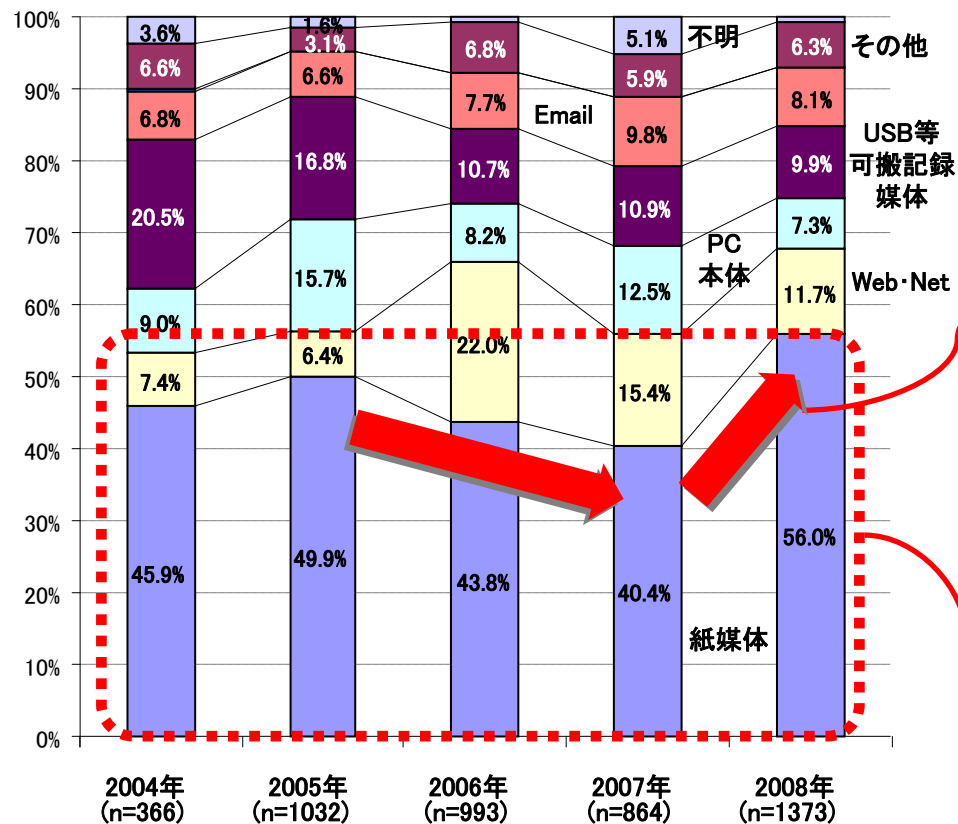
PC本体 (108件) → USB等可搬記録媒体 (136件)

USB等可搬記録媒体 (94件) → Email (111件)

**弱点**

**紙媒体による漏えいが多い。  
件数が大きく増加。**

### ③ 媒体別の漏えい件数(経年)



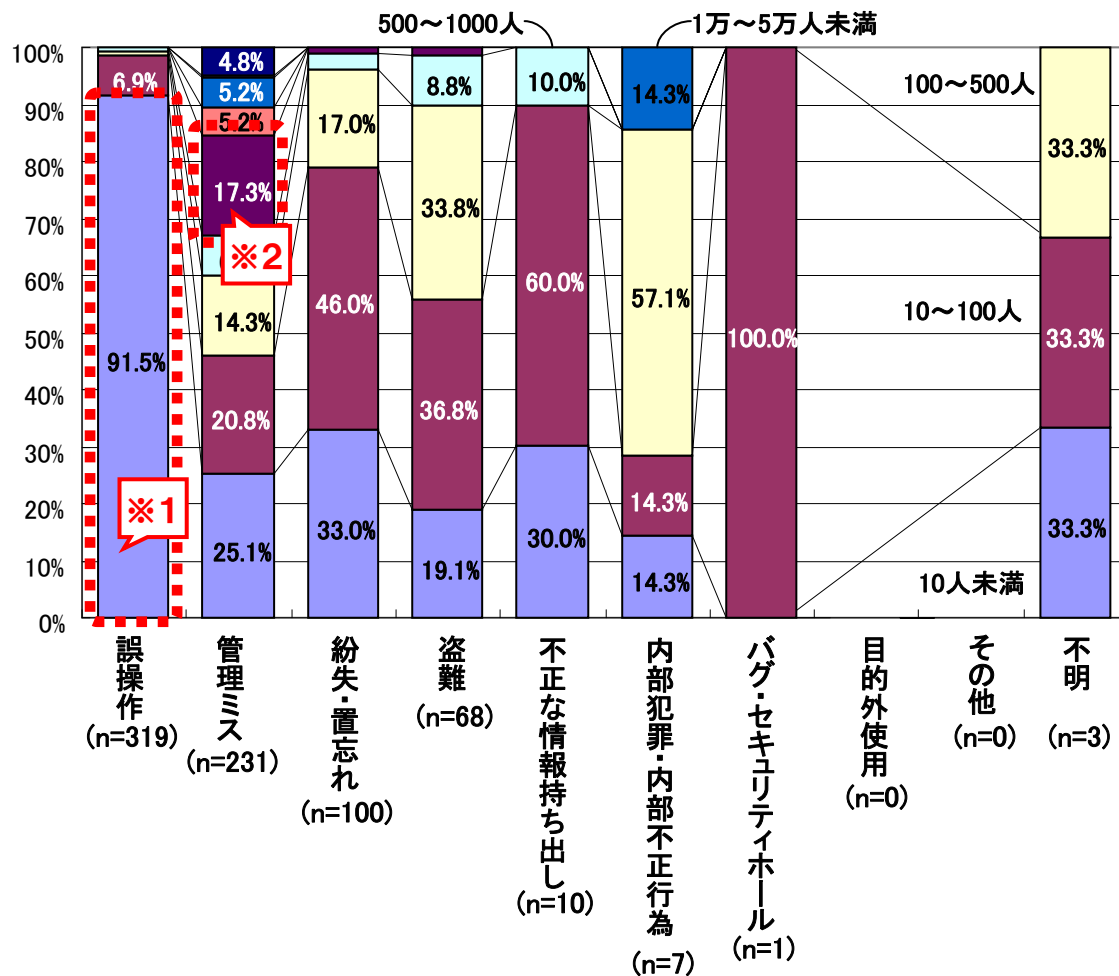
**紙媒体による漏えいが再び増加傾向**

誤操作、管理ミスの増加傾向と相関がある

**弱点**

**相変わらず紙媒体による漏えいが多い**

## ③ 紙媒体の場合の漏えい原因



**誤操作、管理ミスの  
占める比率が高い**

**誤操作の483件中の319件  
管理ミスの305件中の231件**

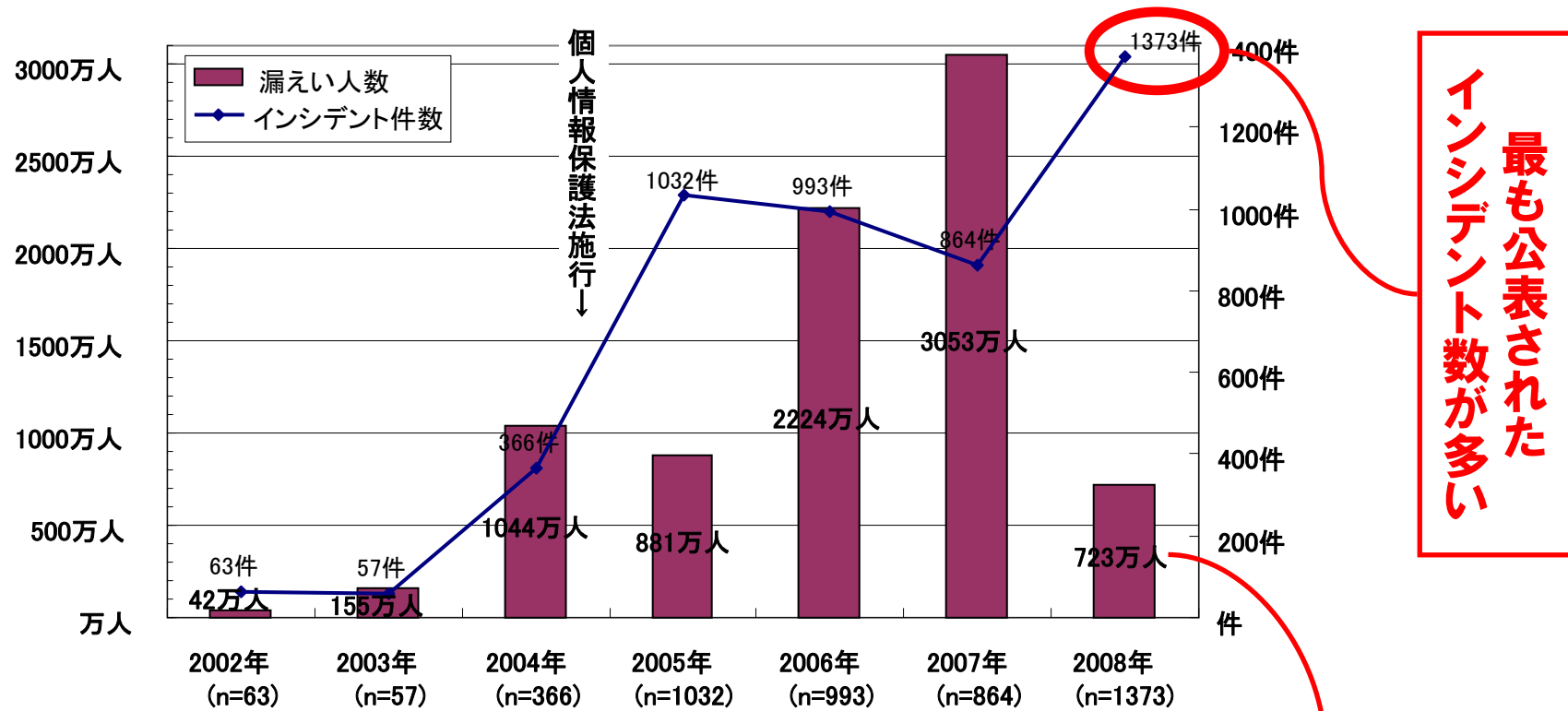
**誤操作:**

**10人未満の小規模な漏えい中心  
[※1]**

**管理ミス:**

**100人未満の漏えいも多いが、  
1000~5000人未満の規模の大きな漏えいも多い [※2]**

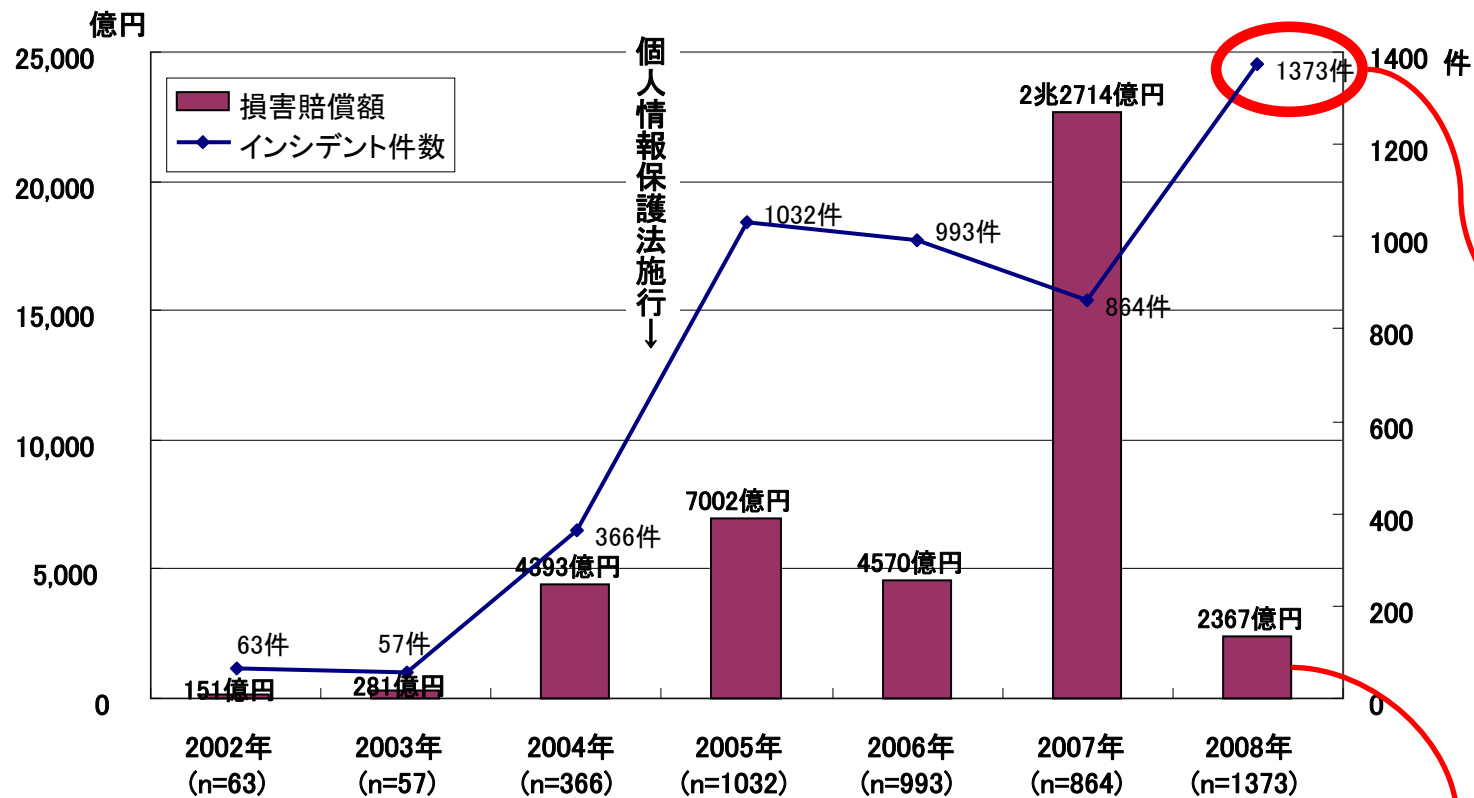
# ④ 漏えい件数と漏えい人数(経年)



**最も漏えい人数が少ない**  
(※2004年以降)

◎大規模なインシデントが1件も発生しなかったため

# ⑤ 想定損害賠償総額と漏えい件数(経年)



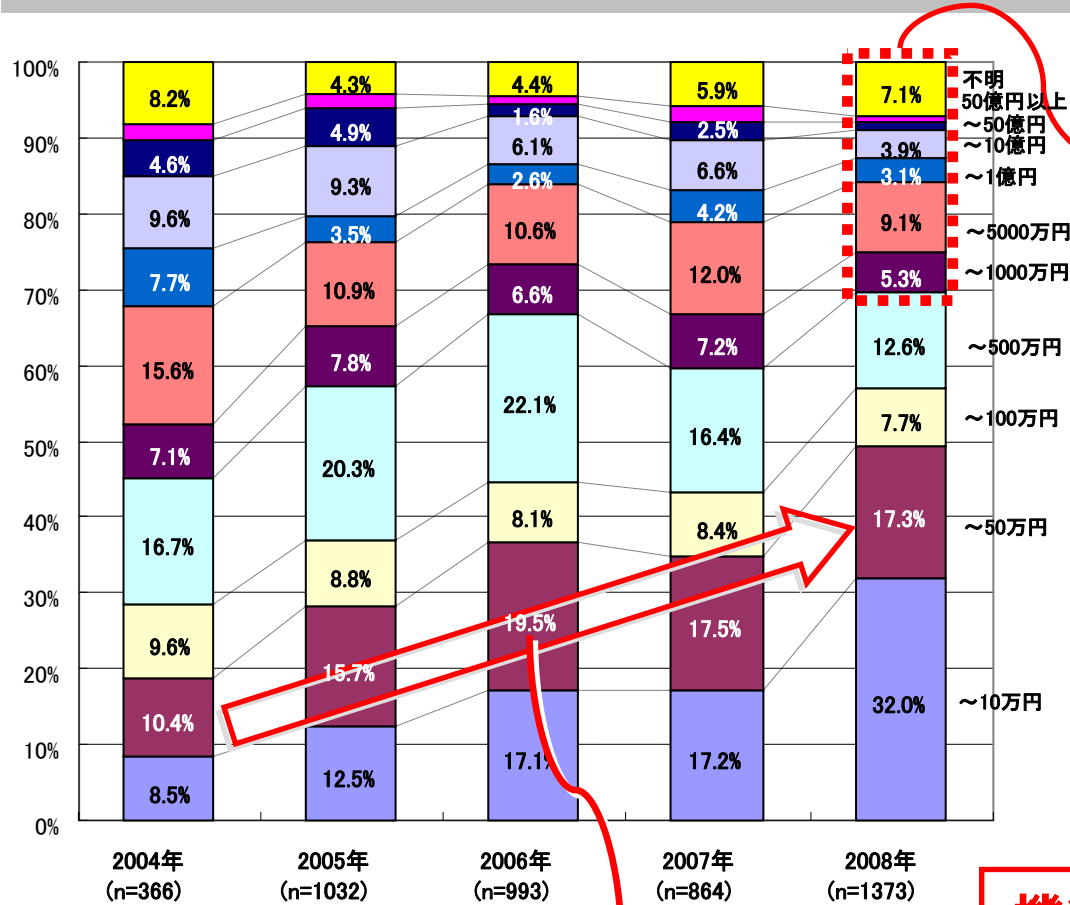
最も公表された  
インシデント数が多い

最も想定損害賠償総額が少ない  
(※2004年以降)

※2002年、2003年のデータは、母数が少なく、統計データとしての偏りが大きいため、考慮しない。

◎大規模なインシデントが1件も発生しなかったため

# ⑥ 一件あたりの想定損害賠償額(経年) JNSA



一件あたりの想定損害賠償額が高額な漏えいインシデントの比率は減少傾向



▲500万円以上の漏えい件数は、2006年以降、ほぼ横ばい。(約300件)

想定損害賠償総額が500万円以上  
||  
機微な個人情報の取り扱いの場合

機微な個人情報の取り扱いについて対策が進んでいるとは言えない

想定損害賠償額が低額のインシデントは、増加傾向

## ⑦ 現状から見える対策の弱点

**弱点**

紙媒体による個人情報漏えいは、依然として多い。  
(管理上の問題、追跡できない、暗号化できないなど)

**弱点**

誤操作などのケアレスミスによる漏えいが、至るところに潜んでいる。(オフィスルールや手順を定めても、どこかで発生してしまう)

**弱点**

権限を持った内部犯による悪意に基づくインシデントの防止は、難しい。(対策の限界、費用対効果)

**弱点**

退職者、契約が終了した派遣社員による持ち出しからの漏えいが顕在化してきている。



# 2008年情報漏えいインシデントの総括



## ■ 漏えい件数が大幅に増加

1000人未満の漏えい件数が大幅に増加。

⇒把握できていなかった個人情報漏えいインシデントが明らかになってきている、インシデントを公表する姿勢が継続しているなど、良い傾向の場合もある。

1000人以上の漏えい件数は、昨年度からほぼ横ばい。⇒対策効果は停滞気味。

## ■ 漏えい人数が減少

2006年、2007年と比較すると大幅減少。

大規模なインシデントの発生件数が影響。

## ■ 100万人を超える大規模なインシデントが発生ゼロ

被害額が高額なインシデントの比率が減少。

⇒しかし、被害額が1億円以上のインシデントの発生件数は多い。(計78件、6件/月)

⇒500万円以上の漏えい件数は、2006年以降、約300件でほぼ横ばい。

**突発的な大規模インシデントの発生ゼロ、漏えい人数の減少、想定損害賠償総額の減少  
⇒一部に対策の効果があったが、全体的には改善していない。**

**継続的な対策を！**

# 2009年 活動計画



## 【主な活動内容】

- 2009年 個人情報漏えいインシデントの調査、報告書の作成
- 個人情報漏えい以外の情報セキュリティインシデントの被害額算定モデルの作成と現状調査

## 【年間活動予定】

- 6月 2008年 情報セキュリティインシデントに関する調査報告書の公開
- 7月 2008年 同報告書の解説セミナー開催  
(リテラシーベンチマーク作成 WG 合同開催)
- 7月 新しい被害額算定モデルの検討、調査活動の開始
- 11月 2009年 情報セキュリティインシデントに関する調査報告書 集計速報(2009年 前半)の公開

もし、セキュリティ被害の推定などで、困っていること、WGへの要望などがありましたら、アンケート用紙へご記入ください。

# 報告書の引用、質問について



## JNSAのホームページ上にある 問い合わせフォームを御活用ください。

### 引用・質問の問い合わせページ

### 当報告書のFAQページ

